

学術フォーラム\_コロナ禍を共に生きる#7  
「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の克服に向けた  
レジストリ研究の現状と今後の方向性」  
医療情報の収集と活用による対策について

主催：日本学術会議、 主催（予定）：日本医学会連合、後援（予定）：日本生命科学アカデミー

開催日時予定：令和4年5月28日土曜日午後1時半から16時半頃まで

演題名：妊婦 COVID-19 レジストリ

演者：山田秀人

日本産婦人科感染症学会理事長

手稲溪仁会病院 不育症センター長 兼

オンコロジーセンター ゲノム医療センター長

抄録：

厚労研究班および日産婦学会の事業として、2020年1月から妊婦 COVID-19 のレジストリ（登録）を行なっている。妊婦 COVID-19 の実態を調査し、妊娠中の感染、重症化、母子感染の予防と対策に役立てることを目的とした。2022年3月1日までに、感染妊婦 540 人のレジストリについて解析した。重症度は、軽症 67%、中等症 I 16%、中等症 II 15%、重症 1.9%であった。感染妊婦の症状として多い順に、発熱、咳嗽、咽頭痛、鼻汁、味覚障害、嗅覚障害、呼吸苦、倦怠感であった。妊娠中の治療は抗凝固療法とレムデシビルが多く、重症例でステロイドが追加されていた。妊娠 36 週未満での感染では、重症化しなければ軽快後の分娩を待機し、36 週以降の感染では施設の状況で分娩法を選択していた。感染後 2 週間以内の出生児では、母児分離と人工乳栄養が多かった。新生児感染は 2 人 (0.75%) で、ともに軽症で合併症なく退院した。中等症 II・重症例では早産が増加した。年齢 31 歳以上、妊娠 22 週以降の感染、妊娠前の BMI 25 以上は重症化のリスクであった。第 4 波までに比べ第 5 波では重症例が多く、25 歳以下でも酸素投与や呼吸管理を要する妊婦がみられた。